

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500020		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流		
所在地	千葉県流山市古間木313-21		
自己評価作成日	平成25年11月6日	評価結果市町村受理日	平成26年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クララ清流は
1.寝たきりにさせない
2.メリハリをつけた生活リズムの継続
3.残存機能を活かしてできることはご自分で
を合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者様を尊い存在として大切に思う心をもって介護サービスに携わる」という理念が浸透している様子が、食事時の役割分担や会話の時の言葉遣いなど日常生活の随所で感じられるホームである。納涼祭やバス旅行の写真からは利用者の笑顔が輝いている。グループホームだからできる介護サービスというものが、高齢化が進む地域の中で際立つ時代になってきたとさえ感じさせられる。人材育成にも力を入れており、管理者のリーダーシップのもと、理念に沿った介護を徹底させている。運営推進会議を家族との連携強化の機会ととらえ参加を促している点は注目されるが、アンケートの回答率など、家族の関心度を高める取り組みについて、なお一層向上を目指して職員間で話し合われることを期待したい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念である「利用者様を尊い存在として大切に思う心をもって」介護サービスに携わる」を、スタッフ一同共有し、管理者の指導の下ケアにおける実践に努めています。	管理者は職員に対して、介護の場面場面で、自分が利用者の立場だったらどうされたいか、ということを考えながら行動するようにと指導しており、常に理念に立ち返った介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の日課になっている散歩のときに、入居者様やスタッフ共々御近所の方々との挨拶や会話などで交流を深めている。地域の祭りやリサイクル回収や清掃活動にも参加し、接点を持つよう努めています。	近所の民生委員を仲立ちとして地域住民との交流を深める努力をしている様子が運営推進会議の議事録からも見て取れる。自治会の活動にも積極的に参加している。食糧の備蓄状況についても地域に公開している。	地域の環境も年々変化し、高齢化も進んでいる中で、あらためて地域社会における役割などについて地域の方や職員間で話し合われることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からのご質問や相談を受けることはなかったが、いつでも気軽に相談や支援の方法をお分かちしたいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っており、報告をし、ご意見をお聞きしています。要望などがあった場合、現場に反映するよう努めています。	運営推進会議は3か月ごとに家族会を兼ねた形で、地域包括や民生委員、自治会関係者等を含めて行われている。特にホームの実践の状況を家族に理解してもらうことに注力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、良い関係を築くように心がけています。	管理者は市の介護支援課をはじめ複数の部署と緊密な連携を取っている。介護の質に対する市の信頼も厚い。	今後介護制度等社会環境の変化についても市と情報の共有など、さらに連携を深めていかれるよう期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまでの研修や施設内の教育によって正しく理解し危険防止以外の身体拘束はしないように努力しています。	定期的に職員を外部の研修会に参加させており理解が深まっている。安全のため、家族の了解のもとで夜間のベッドの転落防止柵を使用することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者とスタッフは虐待について理解し防止に努めている。身体チェックはまめに行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方を通して、制度について学ぶ機会となり、逆に制度についてその方にご説明をすることもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には契約について時間をかけて十分な説明を行い、質問にも十分対応を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は面談の機会に、スタッフはご家族との会話の中で、ご要望や意見を聞き取り報告し合うように努めています。要望については現場に反映させています。	運営推進会議(家族会議)や日常の訪問時に家族とのコミュニケーションをとる努力をしている。	アンケートの回答数は前年より若干改善しているが、さらに多くの家族の参加を得るよう工夫されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングにおいて、またホーム長とスタッフとの面談やちょっとした会話の中で意見や提案を聞く機会があります。	2か月ごとのスタッフミーティングだけでなく、随時話し合いが行われており、職員からの介護の実践に対する提案については全職員で話し合い、共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、個人面接を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後はもっと施設外の研修を受ける機会を設けたい。新人スタッフには現場で折に触れケアの指導や教育をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、職員が他施設へ見学・交流する機会を設けていきたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごして頂けるよう、初期においては特に気を配り、入居者様と行動を共にしつつ、よく話を傾聴して、信頼関係を作るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者は初期段階で、ご家族様から要望や不安なことなどを聞く機会を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者はご家族様だけでなく、ご本人に実際に会いに行ってお話したりと、見極めのための努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員は、ご入居者様を人生の先輩として接しつつも、暮らしを共にする者として日常的な活動を共にし、また、家族のように働きに感謝を表すことによって、関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子をお伝えしながらも、ご面会の際にはご家族様とお時間を十分持つて頂くよう心がけ、必要な場合には家族としての支援を要請しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内の生活が安定することを前提に、馴染みの方の訪問を受入れ、訪問しやすいような雰囲気や声かけを心がけています。	子や孫等、頻りに面会に来る家族もいる。手紙、年賀状、ちぎり絵等を本人自ら作ったり、書いたりして家族や親しい方に出すことができるよう支援することで、馴染みの人との関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分からお話されない方も輪に入れるようにお声かけしたり、誤解のある時には仲裁したり、散歩の時には手を繋いで歩いて頂いたり、支えあえるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報交換に努め、要望のあったご家族様からの相談に応じています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々話かけをし、一人ひとりの思いや希望を会話の中で把握し、困難な場合は表情や態度から汲み取り、管理者とスタッフがご本人にとって最善は何かという視点で検討しています。	一人ひとりの思いや希望、意向は会話の中で把握し、困難な場合は顔色、その日の話し方、身体状態の変化等を十分に観察した上で検討してる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から初期の段階でお聞きしている。今までの生活や環境や趣味等を毎日の生活の中からもお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、また記録などを通して一人ひとりの現状を把握して対応することを心がけています。有する力においてはスタッフ間で共有するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、その度に担当を変えることにより、カンファにおいて意見やアイデアが様々な視点から出るようにして介護計画に活かしています。ご家族様からのご要望もお聞きしています。	2~3カ月毎にモニタリングを行い、会議を開催している。その都度、担当を変えることで意見やアイデアが様々な角度から出るようにしてから介護計画を作成している。アンケートでも家族は介護計画の説明を受け一緒に話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を実際的なものとするよう指導しています。日々の様子を把握し、職員同士情報を共有し、話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況・要望に応じて、買い物支援、通院・送迎の支援など、柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに参加しています。身近な自然を楽しんだり、散歩の際には公園に立ち寄ったりと工夫しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の同意を元に、協力病院との連携を取り支援している。入居前からの医療機関や訪問診療を希望の方にも、そのようにしています。	契約時に家族の同意を得た上で、協力内科クリニックの往診を月2回、全員受診している。協力病院との連携もあり、適切な医療が受けられることで家族の方の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に詳しい情報を送り、適切な受診ができるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問診療医からの情報だけでなく、ホームでのADLや服薬の情報を送っています。入院中や退院時にも病院窓口と情報交換し、退院後スムーズに施設での生活に戻れるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者はご家族様と話し合いを重ね、共有を計っています。	利用者の高齢化が進み、終末期のあり方についての相談が増えている。家族は当ホームでの看取り希望が多く、管理者は家族との面談を開始し、話し合いを重ね共有している。ホーム内での看取り経験が無く、ミーティングで看取りの話し合いを重ね全職員が支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	折にふれて初期対応の指導をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づいた定期的な消防訓練を行っている。地域の方々との協力体制については、もっと強化したい。災害時の避難先についても散歩の時などに確認したい。	消防署指導で年2回、災害時の避難訓練を夜間想定で本館式号館合同で行っている。避難場所は地域の八木中学校、備蓄品は一月分確保している。	地域の方々も高齢化が進み、今後の協力体制について検討が必要と考えているが、地域との話し合いなど実行に移されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念が、人権を尊重する主旨のものであり、これからも心掛けていきたい。	利用者は人生の大先輩である事を忘れずに、その方その方に合った親しみやすい言葉かけや、支援の必要な場合はアイコンタクトで対応するように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が話しやすいような声かけをしたり、希望をお聞きしたり、自己決定できるように援助することに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床についてはペースや体調を考慮しています。リビングでレクをすることが多いが、居室で過ごす時間が必要な時には無理強いをせず尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時、ご自分で出来る方はゆっくりと整容されています。髭や肌のお手入れを支援しています。必要に応じてふさわしい服装をされるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付けについて入居者様と分担し、楽しみながら行っている。職員も同じものを一緒に頂きます。食器の片付けはできる方全てがご自分のことを行っておられます。	出来る方は食事作り、盛りつけ等を職員と一緒に準備し、食事も共に頂いている。食後の片づけは食器洗い、食器拭き、食器の片付けと役割分担があり、男性の方も参加して行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については記録して把握している。水分摂取の働きかけや、身体状況に応じて食事摂取の援助を行っています。療養上問題が無い限り、ご希望によって食事量を調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず全ての方が口腔ケアを実施し、一人ひとりに応じた介助を行っている。入れ歯の手入れも確認し、週二回洗浄剤を使用している方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票に記録し、それを元に時間を見計らってトイレ誘導することによって、トイレで排泄できるよう支援しています。	「水分、排泄チェック票」に24時間の記録を記載し、一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、誘導することで昼夜共に全員トイレで排泄ができています。尿取りパットや布パンツ等の使用の方でも汚すことが無く、自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録に基づいて、飲食物の工夫を行ったり、水分摂取や運動への働きかけを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、楽しい会話をしながら、その入浴をできるだけ楽しんで頂けるように努めています。	入浴日は火木土の週3回。浴槽は個浴で可動式で左、右麻痺の方でも入浴を楽しむ事ができる。現在は入浴を拒否する方は無く、楽しんで入浴ができるよう心がけている。季節の菖蒲湯や柚子湯は楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や体力を考慮して日中休む方もいますが、できる限り活動を促しリズムが崩れないようにしています。ふとん干し・シーツ交換すること、室温調整することによって、夜間は安心して睡眠できるように工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者がきちんと把握し、一人ひとり決められた服薬を間違いなく服用するようにしています。薬の処方が変わった時にも、良く観察をし、かかりつけ医との連携を取れるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあったお手伝いをして頂き、感謝を表し、張り合いのある毎日を過ごして頂くようゲーム、談話、散歩、と色々工夫している。おやつを手作りをしたり、好きな方にはコーヒーを飲んで頂いたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外に出て空気を感ずること、風に当たること、花を見たり、地域の方々との交流などの機会として散歩を日課としています。ご家族様に外出の機会を設けていただくよう働きかけています。	天気の良い日は歩く事を基本とし、その方に合った支援で、花を見たり、地域の方々との交流の機会としている。町会の行事へ参加したり、外食会、買い物ツアーのほか、今年初めての企画として大型バス遠足を本館弐号館合同で出かけたりと、外出支援を工夫している。	アンケート調査では車による外出支援を望む声が聞かれており、今回の新しい企画が定着することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については事務所管理が原則だが、買物に行った時にはご本人が支払いを行うことを支援したいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	クリスマス・年賀状・暑中見舞いの葉書を手作りして送っています。手紙を書かれた時には、必ず届くようポスト投函に同行したり、宛先の家族に手渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オゾン設備や換気によって匂いの面で配慮している。常に心地よく生活できるように毎日清掃しています。	オゾン空気清浄設備で1時間置きに空気が浄化されている。毎朝リビングと居室の清掃を職員と利用者が一緒に行い、匂いも無く心地よく生活ができている。明るいリビングの天窓は「お月見」が楽しめるように設計されており、和室コーナーは癒しの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご入居者様同士、静かな雰囲気がお好きな方などテーブルで分けて、楽しく安心して過ごせるように工夫しています。リビングにはソファもあり、その時々により自由な交流ができるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはもちろん適宜、使い慣れた家具や衣類などを居室に置くようにご家族に要請しています。	天気の良い日は布団を干し、干せない日はきちんと畳む習慣ができている。季節替わりには家族の方が来訪して、衣類や布団等の入れ替えを行い室内は常に整理整頓されている。また、使い慣れた和筆筒、仏壇等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、廊下を広く取り余裕を持って歩行できるようになっている。椅子にご自分の座布団を置いてもらって席がわかるよう、また、ご自分の居室やトイレの場所がわかるように目印をつけています。		